

京都の魅力を発掘し、訪日外国人向けの体験ツアーを作成・実施

1 目的・概要

本プロジェクトは、訪日外国人の参加者に楽しんでいただける、京都を舞台としたオンラインツアー作成・実行に向けて、半年間活動してきました。

コロナウイルスの感染拡大を受けて、当初の予定とは違うオンライン上でのツアーの作成となりました。京都の魅力を最大限に伝えられるような工夫を考え、訪日外国人の京都への観光意欲を向上させると同時に、我々も共に京都の新たな魅力の発掘することが本プロジェクトのねらいです。

ツアーの作成を通して得られる、京都の観光の現状を捉え、新たに価値を生み出す力である「課題発見・解決力」やツアーのコンセプトを練り上げる過程で得られる「情報収集力」や「発信力」、チームでの活動を通して得られる「チーム力」や「自己分析力」、またツアー本番の海外の方との交流を通して得られる「国際力」の向上を目的としました。

はじめに、科目担当の方と観光業界の第一線で活躍されているゲストの方からの講義や、富士登山・琴バスオンラインツアーと Airbnb Online Experience の参加を通して、インバウンド業界の概況やガイドの心得、ツアーの造成、及び広報の仕方を学びました。

そして、各チーム5名程度の3チームに分かれ、全員がガイド・添乗員・企画制作・営業広報のいずれかの役割につき、約1時間の大学生らしいテーマ性のある独自のツアー制作に取り掛かります。次に、実際にロケハン（下見）を行い、ツアーで使用する動画・写真撮影を実施したのち、パワーポイントや発表原稿作りを行います。本番前に一度の模擬ツアーを経て、いよいよオンラインツアーを迎えます。本番後は参加者から頂いたフィードバックをもとにツアーを振り返り、良かった点や改善点を分析しました。



Annual Schedule

2020年	9月	本プロジェクトやインバウンドについてのガイダンス
	10月	オンラインツアー参加 / ゲストスピーカー講演 / ツアーテーマ決定
	11月	ロケハン / ツアー制作 / 模擬ツアー実施
	12月	ゲストスピーカー講演 / ツアー制作 / 本番ツアー実施
2021年	1月	本番ツアーフィードバック / ゲストスピーカー講演 / 成果報告会及び準備

2 成果達成度

以下では、各チームのオンラインツアー実施要項、成果達成度について述べます。

【Aチーム】

「伏見稲荷大社だけじゃない！伏見の魅力再発見ツアー～伏見の水～」

日時：2020年12月21日（月）午前10時から11時30分

伏見の魅力を再発見するというテーマのもと、特に伏見の水に着眼して十石舟や日本酒そして伏見稲荷大社をツアーでは紹介しました。わかりやすい英語表現、外国人が興味を持ってくれる点を推測した内容、双方向性を工夫しながらロケハンやツアー作成を実施しました。広報はInstagramやイベントを利用して行ない、ツアーへの参加者は8人でした。生配信が特に好評であり、ツアー後のアンケートでは参加者全員が「ツアーに満足した」、「京都に行きたい」と回答しました。



【Bチーム】

「京都の大学生の休日を体感！観光地をめぐるオンラインツアー」

日時：2020年12月20日（日）午前11時から12時30分

テーマである「京都の大学生らしさ」を意識してロケハンを行いました。

当日のツアーでは、八坂神社～清水寺ルートを、穴場や食べ物などを交えて紹介し、クイズを用いて全員が参加できるコーナーを設けました。

広報はInstagramやイベントを主とし、参加者は6名でした。

「日本を訪れたいと思ったか」という質問に対して、100%の満足度を頂けたので京都に興味を持ってもらうという最終目標を達成できたと考えます。



【Cチーム】

「おうちで京都の大学生を体験！&学生グルメ巡りツアー」

日時：2020年12月27日（日）午前11時から12時

神宮丸太町駅から同志社大学付近の観光・グルメスポットを巡るツアーを作成しました。ガイドと顧客という堅苦しい関係性を感じさせないよう、留学生を案内しているような雰囲気作りをしました。広報はInstagramを利用してプロモーションビデオ等を投稿し、参加者は6人でした。参加者からは、経験した事のない新しい形式のツアーで学生の気分になった、コロナ禍ならではの学生生活も知りたかったとフィードバックがありました。



3 プロジェクトを通じて

コロナ禍で訪日外国人の観光目的での入国ができない現状が続く中、私たちが制作体験した“オンラインツアー”は今後も新しい旅行の形として発展を続けるでしょう。

今回私たちは本プロジェクトを通して、リアルツアーとはまた違った「オンラインで表現することの難しさ」を痛感したと思います。作り手目線のツアー作成にならず、退屈しない映像体験を制作した時間は非常に難しくも面白いものでした。



また、すべてのグループのツアー行程や内容が順風満帆にいったわけではありません。ツアー本番も想定外の出来事や細かな失敗、こうした方がより良かったなどの反省点も多く見られました。私たちはこれら全てをカバーできるような「十分すぎる準備をすることの重要性」も感じました。

しかし、半年間といった短い期間を通して得られたものは多く、総じて前で述べた本プロジェクトの目的は概ね達成できたのではないかと考えます。私たちの活動を通して、ツアーに参加された方々が閉鎖的な日常から脱却できるオンラインツアーの楽しさを少しでも感じていただけたなら幸いです。



編集後記

この半年間で得られた学びや経験、そしてたくさんの人との出会いは、今後の私たちの人生における大きな宝となるでしょう。受講者一同、本プロジェクトからそれぞれの将来に向かって、さらなる成長のために今後も精進していきます。

そして、コロナウイルスの感染拡大によって大きな状況変化があった中で、本プロジェクト科目を無事完遂できたことを本当に心嬉しく思います。

最後になりましたが、非常に充実した経験をさせてくださった科目担当者の藤本さん、新先生、またツアー実施に当たって多大なるサポートをいただきました堤さん、稲垣さん、SAの千田さん、そしてゲストスピーカーの方々、その他全ての関係者の皆様へ心より御礼申し上げます。

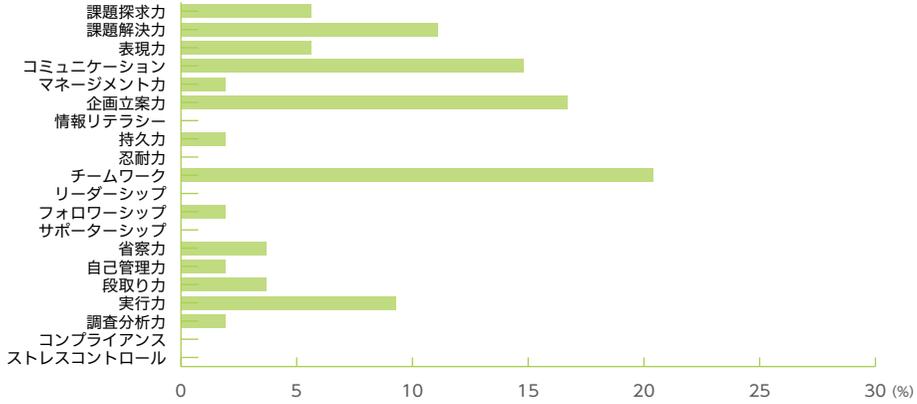
プロジェクトメンバー

小林 広奈(文3) 石原 麻里衣(文2) 矢野 淳平(社会4) 田中 宏佳(法4) 吉田 菜穂(法3) 堤 香乃(法2)
劉 あかり(経済2) 豊田 千歩(商2) 銀羽 麻莉奈(政策2) 中村 真菜(政策2) 城 有沙(政策2)
植村 茉由(政策2) 荻野 雅史(理工2) 島岡 さくら(グローバル地域文化3) 田中 美有(グローバル地域文化2)
和田 康平(グローバル地域文化2) 村松 晋太郎(グローバル・コミュニケーション4)

プロジェクト活動 アンケート集計結果

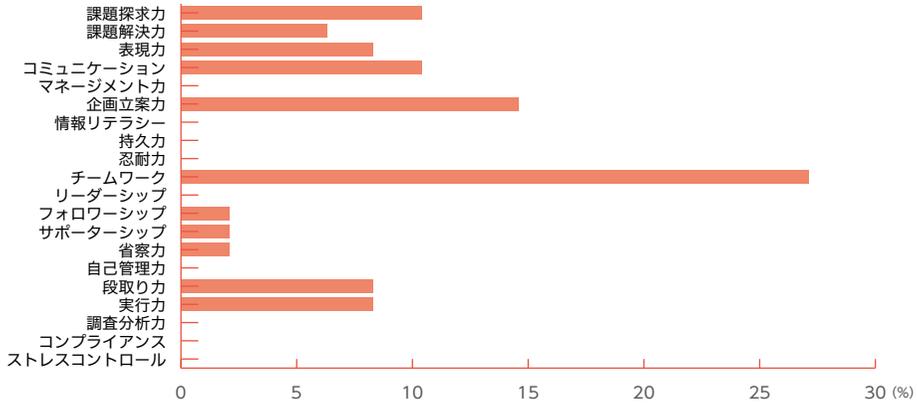
秋学期開始時

Q1 チームとしてのプロジェクト活動に「必要と思われる要素」を選んで下さい



秋学期終了時

Q1 チームとしてのプロジェクト活動に「必要と思われる要素」を選んで下さい



Q2 プロジェクト活動を通して実際にあなたが「身についたと思う要素」を選んで下さい

